

審 議 (会 議) 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県災害医療対策会議
開催日時	平成31年3月26日(火) 19:00~20:00
開催場所	神奈川県総合医療会館1階 AB会議室(横浜市中区富士見町3-1)
(役職名) 出席者	<p>神奈川県医師会副会長 武内 鉄夫(会長)</p> <p>神奈川県医師会理事 (神奈川県災害医療コーディネーター) 西山 貴郁</p> <p>神奈川県歯科医師会理事 村田 拓也</p> <p>神奈川県薬剤師会副会長 後藤 知良</p> <p>神奈川県看護協会専務理事 渡邊 二治子</p> <p>神奈川県精神科病院協会副会長 山口 哲顕</p> <p>藤沢市民病院診療部長・救命救急センター長 (神奈川県災害医療コーディネーター) 阿南 英明</p> <p>横浜市立大学大学院医学研究科救急医学主任教授・横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター部長 (神奈川県災害医療コーディネーター) 竹内 一郎</p> <p>神奈川県立循環器呼吸器病センター所長 (神奈川県災害医療コーディネーター) 中沢 明紀</p> <p>横浜市立みなと赤十字病院救急部長 (神奈川県災害医療コーディネーター) 中山 祐介</p> <p>聖マリアンナ医科大学病院救命救急センター副センター長 (神奈川県災害医療コーディネーター) 森澤 健一郎</p> <p>日本赤十字社神奈川県支部事業部救護課長 笹子 敦</p> <p>自衛隊東部方面混成団本部訓練科防衛班長 河野 充</p> <p>第三管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 安藤 進一郎 (代理 環境防災課専門官 小山 秀之)</p> <p>神奈川県警察本部警備部危機管理対策課長 岡部 郁夫 (代理 危機管理対策課対策第一係警部補 勝又 篤)</p> <p>神奈川県消防長会会長(川崎市消防局長) 原 悟志 (代理 川崎市消防局警防部長 馬場 稔)</p> <p>横浜市医療局医療政策課救急・災害医療担当課長 栗原 政幸 (代理 医療政策課担当係長 岩崎 成彦)</p> <p>相模原市健康福祉局福祉部参事兼地域医療課長 増田 美樹夫</p> <p>藤沢市保健所地域保健課長 辻 俊之</p> <p>茅ヶ崎市保健所地域保健課長 大川 寿之 (代理 地域保健課課長補佐 丸木 利晴)</p>

	<p>神奈川県都市衛生行政協議会代表 (厚木市健康づくり課長) 大塚 由絵 神奈川県町村保健衛生連絡協議会代表 (愛川町民生部健康推進課長) 矢後 早苗 神奈川県小田原福祉事務所足柄上センター所長 北原 稔 神奈川県安全防災局安全防災部災害対策課長 佐川 範久 (代理 災害対策課訓練指導グループリーダー 吉野 正彦) 神奈川県健康医療局保健医療部健康危機管理課長 大久保 久美子</p>
次回開催予定日	未定
問い合わせ先	<p>健康医療局保健医療部健康危機管理課 健康危機管理グループ 田村 電話番号 045(210)4634 (直通) ファックス番号 045(633)3770</p>
会議の議事	<p>1 開会 2 議事 (1) 議題 ア 災害時小児周産期リエゾンの指定等 イ 平成31年度大規模地震時医療活動訓練 ウ 平成31年度神奈川県災害医療関係年間スケジュール(案)等 (2) 報告 ア 災害救助法制の見直し 3 その他 4 閉会</p> <p><あいさつ> (前田技監兼保健医療部長)</p> <p>○ ただいま御紹介いただきました、神奈川県健康医療局技監兼保健医療部長の前田と申します。本日は、年度末のお忙しい中、委員の皆様にお集まりいただきまして、厚く御礼申し上げます。</p> <p>○ さて、今年度を振り返りますと、非常に災害の多い年となり、6月の大阪府北部地震に始まり、7月の西日本豪雨、そして9月の北海道胆振東部地震と大規模な自然災害が続いたところでございます。これらの災害について、本県としましても、西日本豪雨では、愛媛県大洲市へ保健師を県内市町村とともに派遣し、北海道胆振東部地震では、DMA T隊員を派遣するなど、人的支援を行ったところでございます。</p> <p>○ また、災害救助法が昨年6月に改正され、この4月には全国に先駆けて県内3政令市が救助実施市として指定される見込みでございませぬ。災害医療については、救助実施市が指定された後も、神奈川県保健医療救護計画での役割分担を基本とすることで、3政令市と一致し</p>

ており、県の広域調整など、DMA Tや医療救護班の派遣等の調整手順が大きく変わるものではございません。しかしながら、救助実施市の指定を機に、県と3政令市との連携をさらに具体的に深めていくため、県と3政令市が定期的に意見交換をする場を設置する予定でございます。

○ さて、本日は、県の災害医療コーディネーターをサポートする災害時小児周産期リエゾンの指定について、内閣府が主催する首都直下地震を想定した医療活動訓練について、などを中心に御議論いただく予定でございます。

○ 関係者の皆様から、是非とも忌憚のない御意見を伺えればと思っております。本県の災害医療行政を、オール神奈川で引き続き進めて参りたいと考えておりますので、今後とも一層の御理解御協力をお願いいたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。

<議事等>

(武内会長)

○ お忙しい中お集り頂きましてありがとうございます。この会議は、大規模災害発生時の医療救護体制につきまして、関係機関の皆様と災害時の医療救護のあり方を協議していくという重要な機会でありますので、皆さまから忌憚のない御意見を頂きながら進めていきたいと思っております。先月、2月8日には厚労省から災害医療コーディネーター活動要領及び災害時小児周産期リエゾン活動要領が発出されております。今日の議題とも関係することかと思っておりますけれども、よろしくお願い致します。

○ それでは、次第によりまして議事を進めてまいりたいと思っております。議題ア「災害時小児周産期リエゾンの指定等」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

((1) 議題ア「災害時小児周産期リエゾンの指定等」について説明)

(武内会長)

○ ありがとうございます。参考2に書かれている研修受講者の方々は、2日間に渡って災害医療の概論等、講義を受けられていらっしゃる方で、本日はこの14名の方を災害時小児周産期リエゾンとしてお認め頂き、指定してよいか、ということによろしいですね。

(事務局)

- 補足させていただきます。14名の方は研修を受けて頂いておりました、候補ということでございます。本日お諮りさせて頂きたいのは、まずは災害時小児周産期リエゾンに指定をしていくということでございます。この方々を候補としながら検討しまして、指定に向けて5月には明らかにしていく、ということをお諮りいただければと思っております。

(武内会長)

- それでは、この小児周産期リエゾンの指定を進めていくということについて、ご承認いただきたいということのようでございますが、何か御発言ございますでしょうか。

(竹内委員)

- 横浜市大の救急、竹内でございますけれども、僕のほうからは、さっき前田技監が言われた話にもありますが、僕自身、横浜市の災害医療アドバイザーですので、政令指定都市、救助実施市の立場から申し上げたいと思うのですが、この小児周産期リエゾンについても、次の議題の今年の内閣府訓練についても、全てが関わることなので、まず最初に申し上げたいと思います。
- 救助実施市となり、確かに急性期の救助は政令市としてもできるようになったということですが、医療の裏のほうから考えますと、急性期の救助と、急性期の医療は非常に密接に関連するだろうと思っています。どの県でも政令指定都市と県との関係は難しいところがありますが、横浜市は人口的にも財政的にも大きいし、370万人抱えていて、横浜市の医療体制としても、やはり全てを県だけの枠組みとするのではなく、この機会に、横浜でそれを早くしなければ、あるいは課題があるのであればそれを出さなければ、他の所には何もできないだろうという気概がありますので、医療に関しても、課題もたくさんあることは認識していますが、横浜市の急性期医療としては、できるだけやれることを進めていきたいと考えています。
- 小児周産期の分野に関しても、受講の人数にしても横浜市の中の方がたくさんいますので、かなり市と県のだぶりはありますが、どうしても横浜市は横浜市のところでとりまとめる等ということ、今後、それを実際打ち出す方向で考えていきたいと思っております。
- ただ一方で申し上げておきたいのは、横浜市の医療が、決して勝手に動くわけではなくて、その中で何が課題であって、何をやっていて、どういう風に動くかということ、逐一県に報告をし、その中

で情報共有することが、我々にしても県にとってもプラスになると考えておりますので、この小児周産期リエゾンについても、横浜市を考えるべき人材と県全体を考えるべき人材を、他の政令市である川崎と相模原がどう動くか、まだ僕自身も把握はできていないのですが、少なくとも横浜市は370万人抱えていて、マンパワーも非常に豊富ですので、そういう方向で医療に関しては進めていきたいということで、横浜市医療局とも今調整しているところです。

- 9月7日の訓練に関しても、それをある程度形作って、課題が出たところを、再度、県と市と、医療のほうも行政のほうも一緒に検討させていただければと考えているところです。

(武内会長)

- ありがとうございます。横浜のほうの状況、県との連携について、竹内委員のほうからお話がありました。何か今のお話、それからそのほかでもかまいませんけれども、御意見ございますでしょうか。

(阿南委員)

- 別の話になりますが、この小児周産期リエゾンを指定していくことは、必要なことなので、早くしてほしいなと思っています。その上で、スケジュールということも含めて、この方針のところに書いてある内容を、この候補者の方々から意見を聞いて、内容を作って、というのは、全体のスケジュール感が、いまいち、具体がよく見えません。内容を作って指定していくのか、指定していくことと並行してやっていくのか、そもそも誰がどうやって作っていくのかというところが見えません。行政主導でお作りになられて、それをどこかのところで承認の形に持っていくのか、そのあたりがちよっと見えないので、そこをわかっているのであれば教えていただきたいのですが。

(武内会長)

- いかがでしょうか。

(大久保委員)

- 健康危機管理課長の久保でございます。ありがとうございます。まずは御意見を個別に頂いているのですが、やはり一度に集まって、皆さんから御意見を聞いて決めていったほうが良いという御意見を頂いたので、4月にリエゾン研修受講者の皆様を中心に御意見を頂く、裏面に載っていらっしゃる方に一堂に集まって頂いて、私どものほうで御意見を頂いて、行政である程度の内容を固めて、指定に持っていく。5月に指定ということで考えております。

(阿南委員)

- 災害医療コーディネーターとの兼ね合いが、結構からむので、その突合のチャンスを必ず提供してください。

(大久保委員)

- 5月にコーディネーター会議がありますので、そこでコーディネーターの皆様にご確認いただいて、指定に持っていきたいと思っております。

(阿南委員)

- わかりました。

(武内会長)

- よろしいでしょうか。横浜のほうが少し先行するかもわかりませんね。

(竹内委員)

- 役割分担をうまくしながら、一緒に課題を出していきたいと思えます。

(武内会長)

- よろしくお願ひします。そのほか御意見ございますか。よろしいでしょうか。それでは今説明のありました、小児周産期リエゾンの指定の方向で、これから進めていくということによろしいでしょうか。

(出席全委員の了承)

(武内会長)

- では、異議がないようですので、承認するというにいたしますので、よろしく進めてください。いろいろな機関との連携もぜひお取りいただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。
- それでは、次の議題イ「平成31年度大規模地震時医療活動訓練」について、事務局から説明をお願ひいたします。

(事務局)

((1) 議題イ「平成31年度大規模地震時医療活動訓練」について説明)

(武内会長)

- ただいま、資料2に基づいて説明がありました。御意見、御質問等ございましたらお願ひいたします。これはもう、DMAT連絡協議会では

もうすでにある程度協議がされていると考えてよろしいのでしょうか。

(事務局)

- これから DMAT 連絡協議会を開催させて頂きまして、これから具体的な検討を始めていくような想定でございます。4月に開催させて頂く方向で今調整をはかっているところでございます。

(武内会長)

- 9月7日で、訓練想定が直下型の地震で、神奈川も被災している、という、資料に書かれている内容が固まっているというところで、具体的にはまだ固まっていないということですね。

(事務局)

- こちらのものは標準的な訓練ということで、主な訓練項目として出されておりますので、これを踏まえながら具体的な訓練内容を、DMAT 連絡協議会を中心として御意見を頂きながら詰められればと考えております。

(武内会長)

- はいわかりました。阿南先生、何か、よろしいでしょうか。

(阿南委員)

- ありがとうございます。藤沢市民病院の阿南ですが、DMAT 連絡協議会の会長を務めておりますので、一言発言をさせていただきます。
- 政府、国としては粗々の訓練の骨格案を作成してあって、これを被災県に相当する1都3県に対しては、それぞれ国としての担当者を付けること及び県で担当者を抽出してすり合わせをするという、これは以前からの骨格としてそういうことでやっておりますので、粗々では事前の協議は実は開始はしております。
- 具体的に神奈川県の内容としてどのように落とし込んでいくのかというのが今後の作業になりますので、そのところ、具体化に関しては県内の関係者に実際に入っただいて色々詰めなければいけないところがありますので、DMAT 連絡協議会に預けて頂いて、具体的なプランの作成というところに落とし込んでいきたいと考えております。
- この訓練はやはり実際に災害が起きることは目前に迫っているということが前提ですので、あまり架空のことにするつもりはなくて、より具体性をもたせる、これ実は4年前に一度神奈川県としてはやって

おります、順繰りに回してやっている訓練ですので、4年前にやっているのですが、次年度に関しては、かなり具体の病院の状況を踏まえて、想定がより本物に近づけるといことが、例年やってきたこととちょっと違って、これは国を中心にいま策定をしています。現実に即した被害想定、各病院の被害想定を細かく算出いたします。それに基づいて、実際にどのように救助活動を行うのかということに落とし込むということが例年と違うところですので、そこら辺のところ今年度の目玉となろうかと思ます。

- あとは、さきほど出たように小児周産期リエゾン、これは神奈川県としてはまだ入れていませんが、ぜひともご参加いただければ、この訓練までには粗々のところで形ができていることを期待しておりますので、そこはご参加いただく、それから DPAT などの精神のチーム、これはすでに活動していることですので、ぜひともご参加いただく、ということで連携を広める、そういったことを主眼にしたいと思ます。以上です。

(武内会長)

- ありがとうございます。訓練内容としては、DMAT が割と表に出ていて、その次に続く JMAT の訓練というより、DMAT が主たる訓練ということなのでしょうか。広域搬送といったところの訓練なのでしょうか。

(阿南委員)

- これは歴史的な背景がございまして、これはもともと広域医療搬送訓練と名称していたくらい、DMAT が中心になって政府の自衛隊機を使つての広域訓練ということが主軸だったところから派生している訓練ですので、おっしゃられるように、DMAT のところが主軸になることは事実でございます。

- ただ、昨今の実災害の経験を踏まえて、DMAT だけではなくて、関係する様々な保健医療チーム、これは参加したほうがいだろうということで、色々関係団体にはご参加いただいていますので、当然日赤、あるいは必要に応じて JMAT のほうのご参加、それは前提としたいですし、それから、神奈川県としては当然、災害医療コーディネーター制度を持っていますので、災害医療コーディネーターも間違いなく入っていただいて、いかにコラボレーションできるか、こういったところはぜひとも項目に入れる必要があると考えております。

(武内会長)

- ありがとうございます。そのほか御質問等ございますでしょうか。

(竹内委員)

- 横浜市大の竹内です。一つ質問なのですが、この国の訓練、今年は神奈川でやらなくてはならないのですが、同じようにビッグレスキューと、九都県市と、日程がここに近いところでやって、非常に企画側としても県側も大変だと思うのですが、今年のビッグレスキューのスタンスは、今年、今まで通りにやろうとしているのか、あるいはこの9月7日の訓練があるので、ある程度小さくするなりどこか統合していくなり、というような県としての考えを聞かせていただければと思うのですが。

(大久保委員)

- 先生おっしゃるように、この1週間前にビッグレスキューがございまして、今年は2つやるということになります。ですので、DMAT連絡協議会の中で、政府訓練と、ビッグレスキューについて、部会を今のところまだ決めていないのですが、DMAT連絡協議会で決めるのですが、分けるような形でやっていければと考えております。ただ、それは今後、皆様と、先生方とご相談しながら決めるということになるのですが、2つございまして、2つとも同時に大々的にやるというよりは、そのあたりは相談しながら規模を決めていきたいとは思っております。

(阿南委員)

- 今の竹内先生の御質問は非常に重要な観点で、ぜひともこの場で、ある程度ご承認いただければと思うのですが、いずれにしてもDMAT連絡協議会が実質をもむ場所になると思いますので、具体を考えると、竹内先生が憂慮したとおり、フルで両方をやるというのは不可能だと思っております。ある程度どちらかは軽くせざるを得ないので、軽くするといったときに、どちらを軽くするかというのは非常に言いづらい、難しいところがありますので、その加減のところを含めて、DMAT連絡協議会にある程度委ねて頂けるということまでご承認いただけると、我々としてはありがたいと考えております。

(武内会長)

- よろしいでしょうか。

(大久保委員)

- 先生今おっしゃったとおり、私どもとしても、そのとおりにさせて頂きたいと考えております。

(武内会長)

- ほかの関係団体の方々はいかがでしょう。よろしいでしょうか。

神奈川県警の方、海上保安庁の方、広域搬送について何か御意見ございますでしょうか。そのほか、ご発言がなければ、今お話のありましたとおり、阿南委員からも話ありましたし、竹内委員からも話ありましたが、ビッグレスキュー等との関連もございますので、訓練内容につきましては、DMAT 連絡協議会で検討して頂いていくということで、ご異議ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

(出席全委員の了承)

(武内会長)

- では阿南先生、会長ですのでまたよろしく願いいたします。それでは続きまして、ウの平成 31 年度神奈川県災害医療関係年間スケジュール(案)等につきまして事務局のほうからご説明をお願いします。

(事務局)

((1) 議題ウ「平成 31 年度神奈川県災害医療関係年間スケジュール(案)等」について説明)

(武内会長)

- ありがとうございます。資料 3、資料 4 に基づきまして、平成 30 年度の資料の報告と、31 年度の年間スケジュールの案が示されました。御質問等ございますでしょうか。事業の報告につきましては、今までやってきたことの報告ですのでよろしいかと思えますけれども、来年度の、31 年度の年間スケジュールは、さきほどから何度も話にしておりますけれども、ビッグレスキューと大規模地震時医療活動訓練は、1 週間の間に 2 つの大きな訓練があるということですので、その辺また、DMAT 連絡協議会でうまくすり合わせて頂いて、大きな負担がかからないようにして頂けたらと思えますけれども、いかがですか。
- それではまた、振り返って何かありましたら、また、御意見を頂くという形にしまして、とりあえず今の資料 3、4 につきましてのスケジュール案でございます。来年度の事業につきまして、この形で、来年度実施していくということで、御意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

(出席全委員の了承)

(武内会長)

- 意見はないようですので、この形で進めて行って、また色々調整をかけていただくということになるかと思えますけれども、よろしく願いいたします。それでは、(2) の報告でございますが、災害救助

法制の見直しにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

((2) 報告ア「災害救助法制の見直し」について説明)

(武内会長)

- ただいま説明がありましたが、御意見、御質問等ありますでしょうか。私のほうから、31ページの資源配分のところですが、対象となる資源の例がありますが、神奈川県医師会ではこの2階に災害時の対策本部を作るわけですが、その時の電気は、自家発電で、重油等を使っているかと思うのですが、災害拠点病院であるとか、そういったところには、優先供給するなど、お考えはございますでしょうか。

(大久保委員)

- 資源関係団体と、県が協定を結んでおります。災害拠点病院は優先して配給する対象になっております。

(西山委員)

- 今の話で、災害拠点病院は非常に助かることであると思いますが、各地区の医療救護本部として、地区の郡市の医師会が使われますので、そちらのほうへも、重油の供給は、横浜市さんでは各区の医師会に優先して巡回してくれることになっております。神奈川県も、医師会の建物が救護本部になりますので、よろしく願いいたします。

(大久保委員)

- この協定につきましては私どもの課というよりは県全体の話ですので、その担当のところにも相談してみないと、今、ここでは、申し訳ないのですが。

(西山委員)

- 要望を伝えてください。

(大久保委員)

- はい、承知いたしました。

(武内委員)

- そのほかいかがでしょうか。行政の方も今日お見えですが、何かありませんか。

- それでは、特にならぬのでございますので、これは報告事項という

	<p>ことでございますので、また、色々な会合のなかでも、この災害救助法の見直し、それから資源配分については、話題が提供されることがあるかと思えますけれども、この報告につきましてはこれで終了させていただきたいと思えます。</p> <p>○ 次第の3 その他 でございますけれども、ほかに何か御意見や御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>○ 本日予定しておりました議題は以上でございますので、進行のほうは事務局へお返ししたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>(事務局)</p> <p>○ 皆さま、お忙しいところありがとうございました。それでは、これをもちまして会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>会 議 資 料</p>	<p>資料1 災害時小児周産期リエゾンの指定等</p> <p>資料2 平成31年度大規模地震時医療活動訓練</p> <p>資料3 平成30年度神奈川県災害医療関係事業の報告について</p> <p>資料4 平成31年度神奈川県災害医療関係年間スケジュール(案)</p> <p>資料5 災害救助法制の見直し</p>